

講義名	スポーツ社会学			授業形態	
担当教員	水野 英莉	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

現代社会では、スポーツは私たちの社会生活のあらゆる側面と結びついて大きな社会現象となっています。たとえば、オリンピックやサッカーのワールドカップなどは、政治や経済などと密接にかかわっており、影響も多大です。スポーツはどのように発展してきたのでしょうか。また、どのような影響を社会に与えるに至ったのでしょうか。この講義では、スポーツに関わる映画を素材として、スポーツを社会学の視点で考えるための方法と知識を学ぶことになります。

到達目標

- (1) 国内外のスポーツ、およびスポーツに関連した事象について、それら歴史的背景や性質に関して知識を深め、グローバルな視点でスポーツを観ることができるようになる。
- (2) スポーツという身近な素材を通して、社会の仕組みや機能、生活や文化について知る。
- (3) スポーツに関連した事例を通して、社会学やジェンダー論の方法や視点について学ぶ。

提出課題

- ・ほぼ毎回の講義時に、課題の提出が求められます。
- ・期末試験として、期末レポートが課されます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

前述提出した課題の講評・解説が受けられます。答え合わせ、見直しにより、次回講義へ活かすことが求められます。

評価の基準

平常点（課題：約70%）、期末レポート点（約30%）によって総合的に評価されます。ただし期末レポートの提出のない場合は放棄とみなされます。

履修にあたっての注意・助言他

- <基礎知識の準備>
- ・社会学の知識が必要になりますので、「社会学基礎」や「社会学概論」、「社会問題論」、「ジェンダー論」の履修を推奨します。
- <アプリケーションの準備>
- ・講義開始前に、必ず大学のメールアドレスとパスワードを確認しておいてください。
- ・期末試験のレポート提出場所はRyuka Portalを使用します。

教科書

・使用しない。

参考図書

その他

講義中に資料を配布します。参考文献は適宜指示します。

授業計画

1. オリエンテーション
2. スポーツの近代化とつくられる伝説 1
3. スポーツの近代化とつくられる伝説 2
4. スポーツの近代化とつくられる伝説 3
5. スポーツとジェンダー、セクシュアリティ 1
6. スポーツとジェンダー、セクシュアリティ 2
7. スポーツとエスニシティ、宗教 1
8. スポーツとエスニシティ、宗教 2
9. スポーツとアマチュアリズム 1
10. スポーツとアマチュアリズム 2
11. スポーツとアマチュアリズム 3
12. スポーツとインクルージョン 1
13. スポーツとインクルージョン 2
14. スポーツとインクルージョン 3
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク

○ キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）

ワークシートに回答し、次週にフィードバックを受ける。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義に出席するだけでは、十分な理解は得られません。知識として定着させるには、復習は不可欠となります。受講後に資料やノートを見直し、知識を整理し、わからないことを質問できるようにしておくといでしょう。合計60時間。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目では、スポーツに関連する具体的な事例を通じて、スポーツについて知り、同時に社会の仕組みや文化・生活について知識を深めることを目的としている。また、社会学やジェンダー論の社会理論や視点についても学ぶ。スポーツ社会学で学ぶ社会学やジェンダー論の理論や視点、グローバルな社会と身近なスポーツを関連づけてみる事ができる能力は、よりよい人間社会の実現、新しい社会や文化を創造していくために必要である。

講義内で種々の統計資料を見てそこから読み取る能力や、ディスカッションを通じて聞き取り・表現の能力を養う。社会的な研究方法の理解、およびコミュニケーション能力を身につけることで、社会生活、日常生活に実践的に活用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

映画を視聴し、ワークを行うために、以下の点をよく読み準備しておくこと。

- <アプリケーションの準備>
- ・講義開始前に、必ず大学のメールアドレスとパスワードを確認しておいてください。

実務経験の有無及び活用

備考

- ・新型コロナウイルス等の感染によって、やむを得ず休講を要し、講義を欠席しなければならない学生への対応について
- 1) 欠席しなければならない授業の実施日以降の2週間以内に、復講後、欠席回の担当講師にメールすること。
- 2) その際に、対応方法、提出が必要な課題や書籍等を教員から指示する。